

109th

N

I

K

A

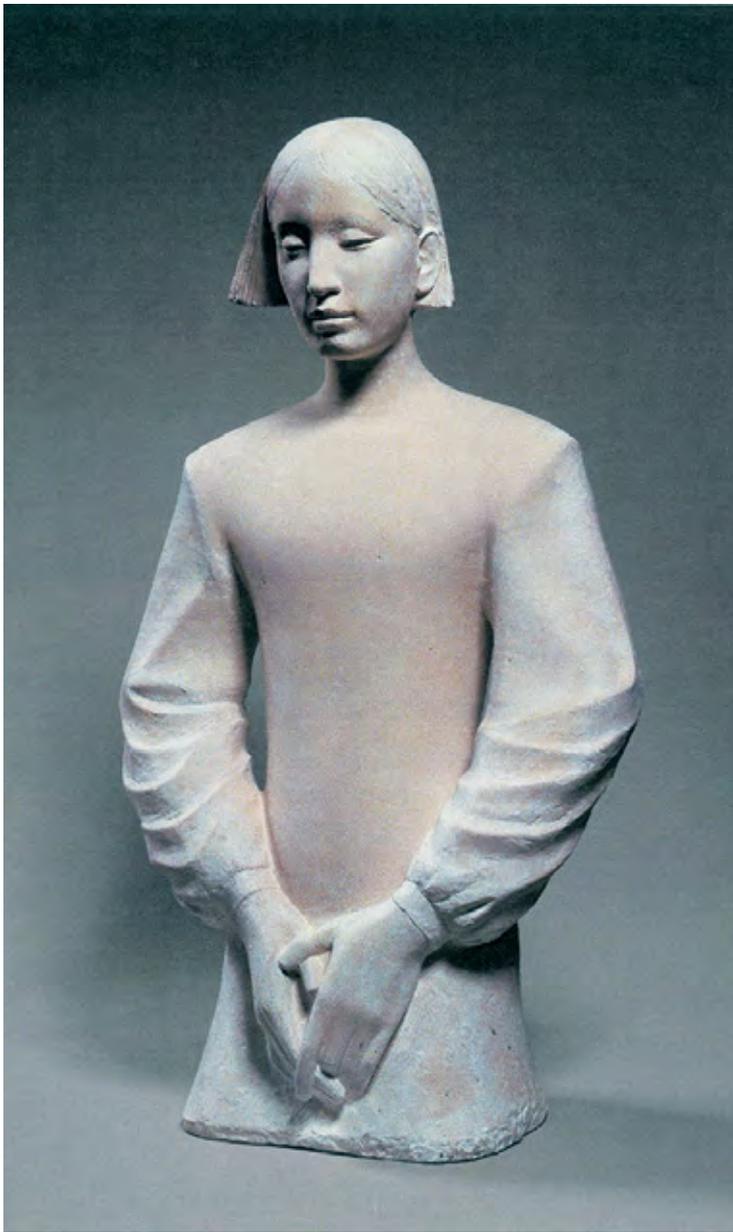
Painting

Sculpture

会 員

sculpture

彫 刻



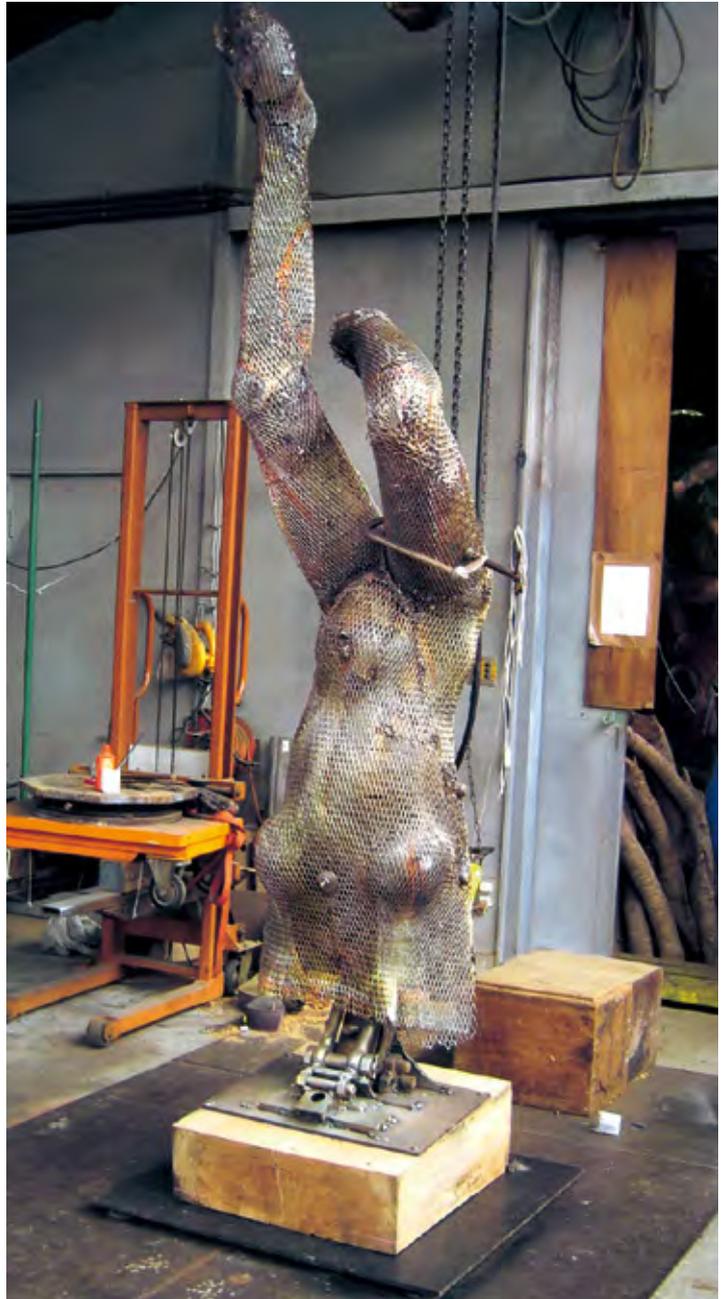
懐Ⅱ H90×W50×D24 テラコッタ 吉野 毅
撮影：江崎義一



MORNING GLOW H240×W120×D200 楠 島田絃一呂



山 H86×W240×D80 石 登坂秀雄



翔の後 H268×DW90×D90 鉄 小田信夫



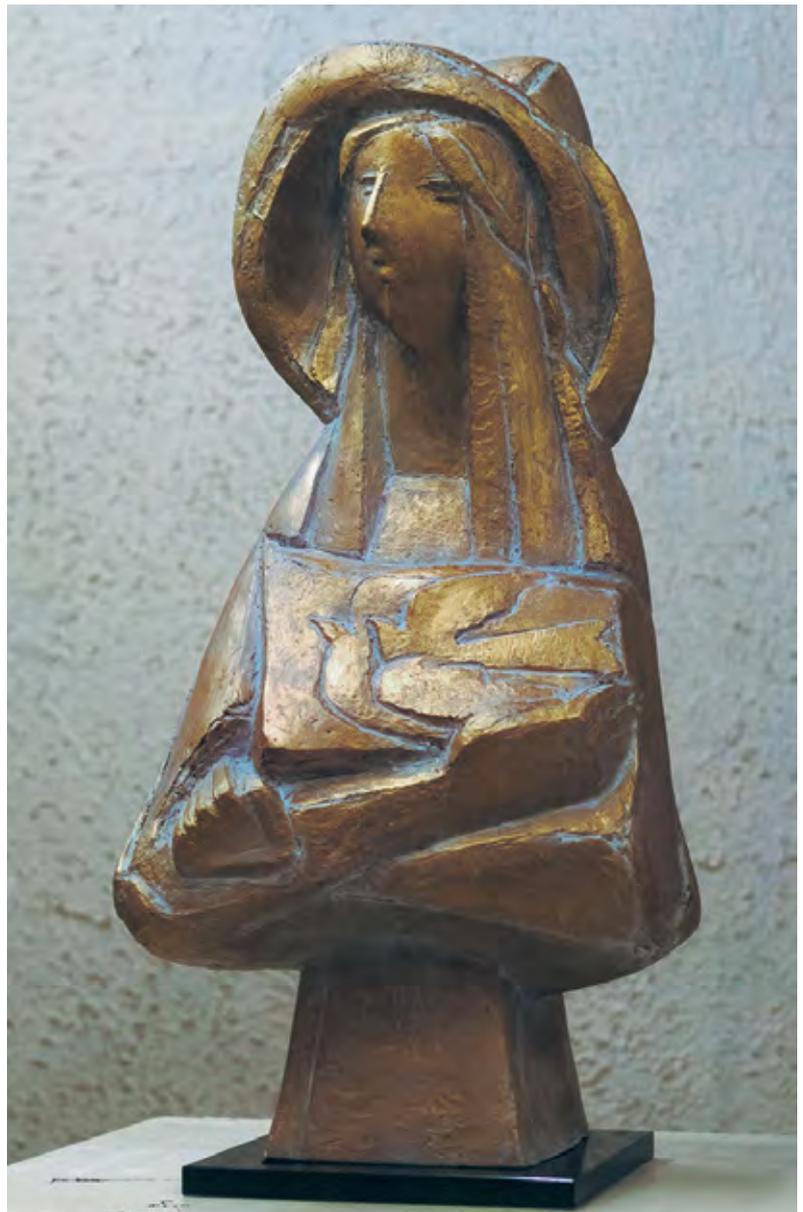
地の具 H45×W180×D150 本小松石 前田耕成



ココニイル H106×W45×D64 黒御影石 宮澤光造



かまえ2025 Ver.R H100×W240×D140 黒みかげ石 菅原二郎



憧れ H90×W41×D32 エボキシ 日高頼子



Rabbit hole H35×W145×D130 白大理石 小林亮介



楊柳觀音—施無畏慈清水 H280×W50×D50 コールテン鋼・鉄 綿引道郎



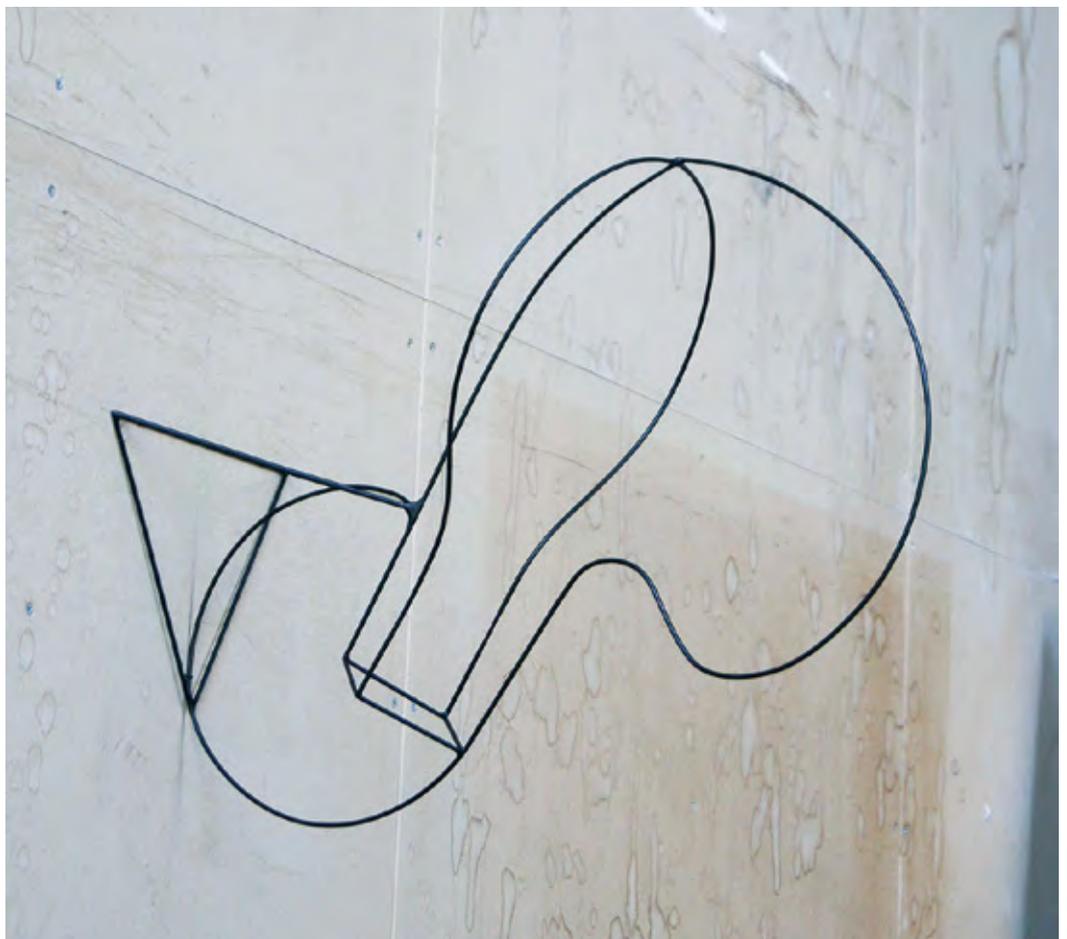
Biohistory LUCA H230×W100×D100 樟 鷺崎直子



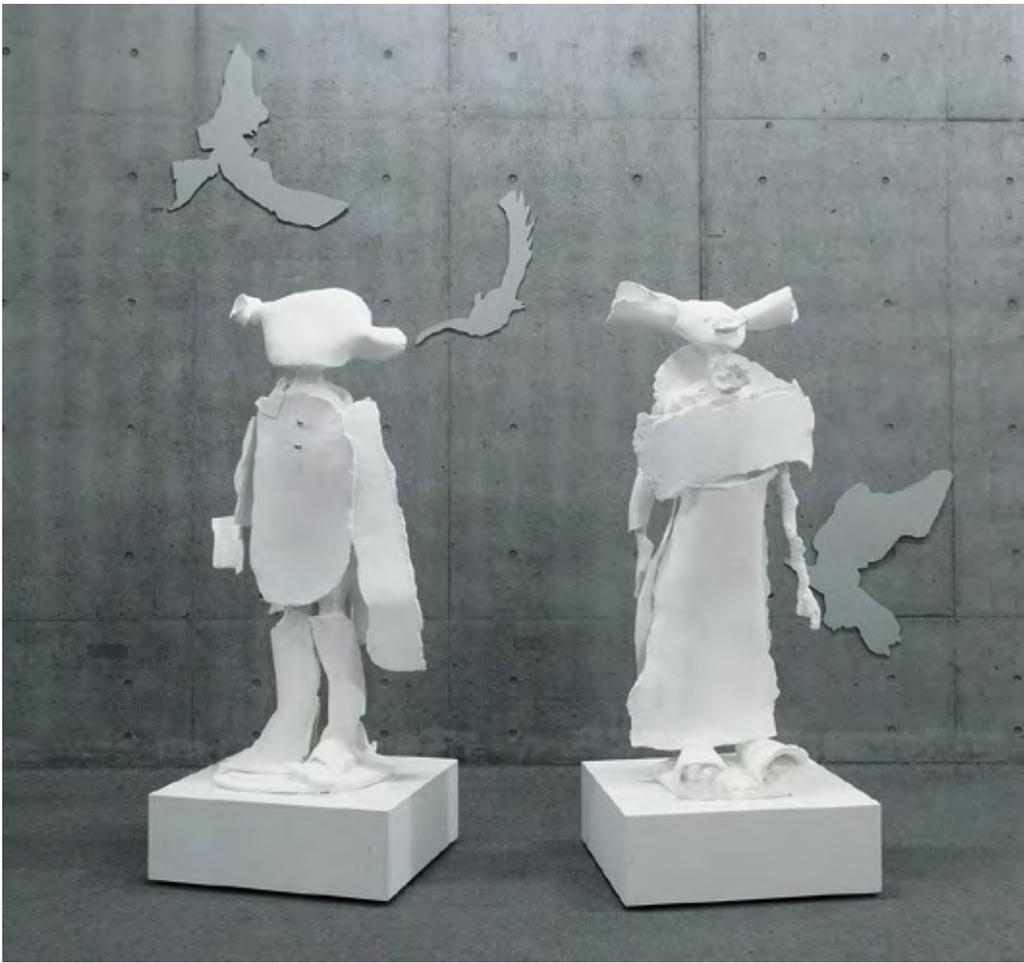
春のころ H90×W30×D25 木 藤巻秀正



蛹ヲ運ブ H200×W205×D60 伊達冠石・赤御影石・木 西村文男



まる・さんかくとふきだしたかたち H51×W26×D31 鉄 吉田二郎



プリンセスとプリンス H230×W280×D140 石膏・スチレンボード 津田裕子



不安と対話 H105×W94×D56 FRP 西村貞雄



実りの刻 H80×W53×D40 樟 安田正子



あわわの流れ H51×W155×D91 トラバーチン大理石 市川明廣



カイト・思 H53×W23×D23 FRP 幡 青果



木霊の伝言 H183×W75×D66 楠 町川和司



記憶「咲」 H80×W75×D35 大理石 山田將晴



C'est la vie H16×W94×D158 木(柄)etc 佐々木 至



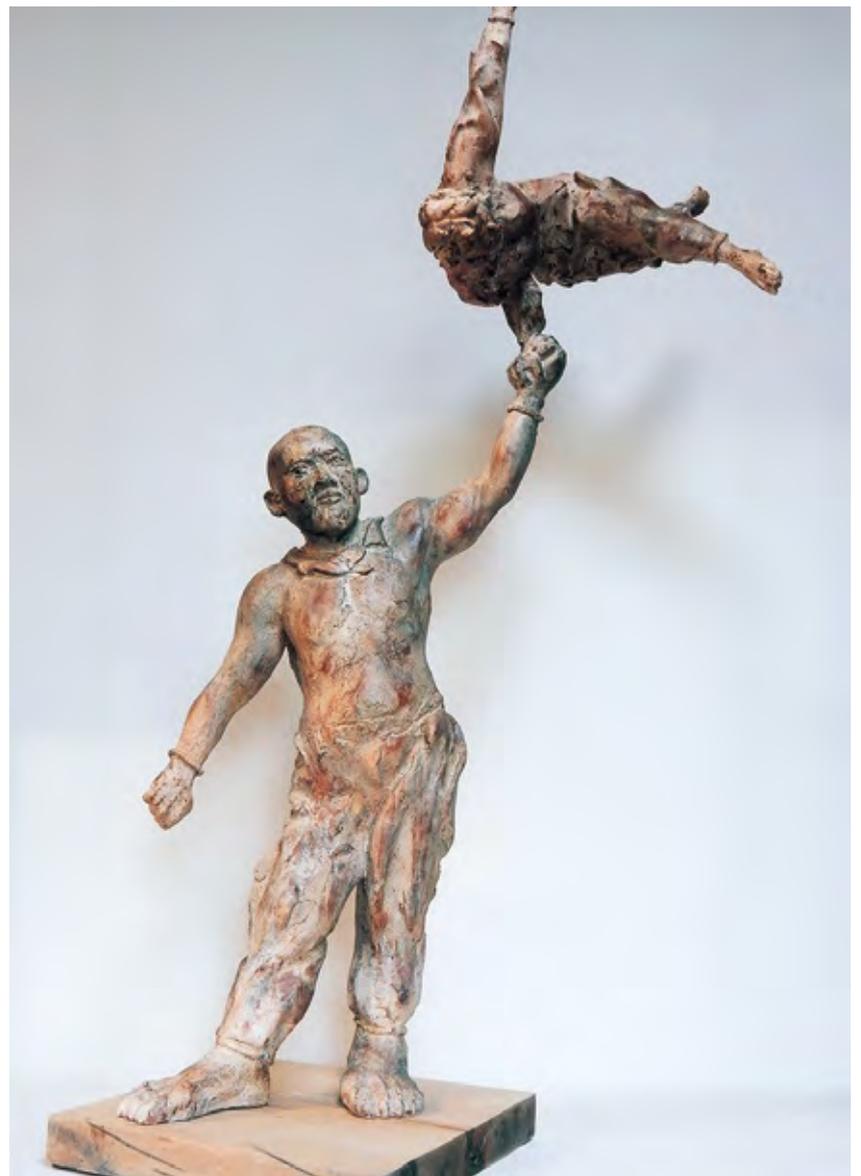
発舟—その先へ H45×W260×D30 石膏 橋本和明



草木萌動 H105×W105×D90 ミクストメディア ニノ宮裕子



Memories of a summer H80×W可変×D可変 ミクストメディア 神田每実



大道芸の来る街 H132×W68×D40 石膏・FRP 大村富彦



星を漕ぐ H42×W27×D54 ジェスモナイト 信時 茂



月下 H36×W24×D17 ブロンズ 宮路久子



母と子 H83×W48×D41 石膏・紙粘土 廣瀬友彦



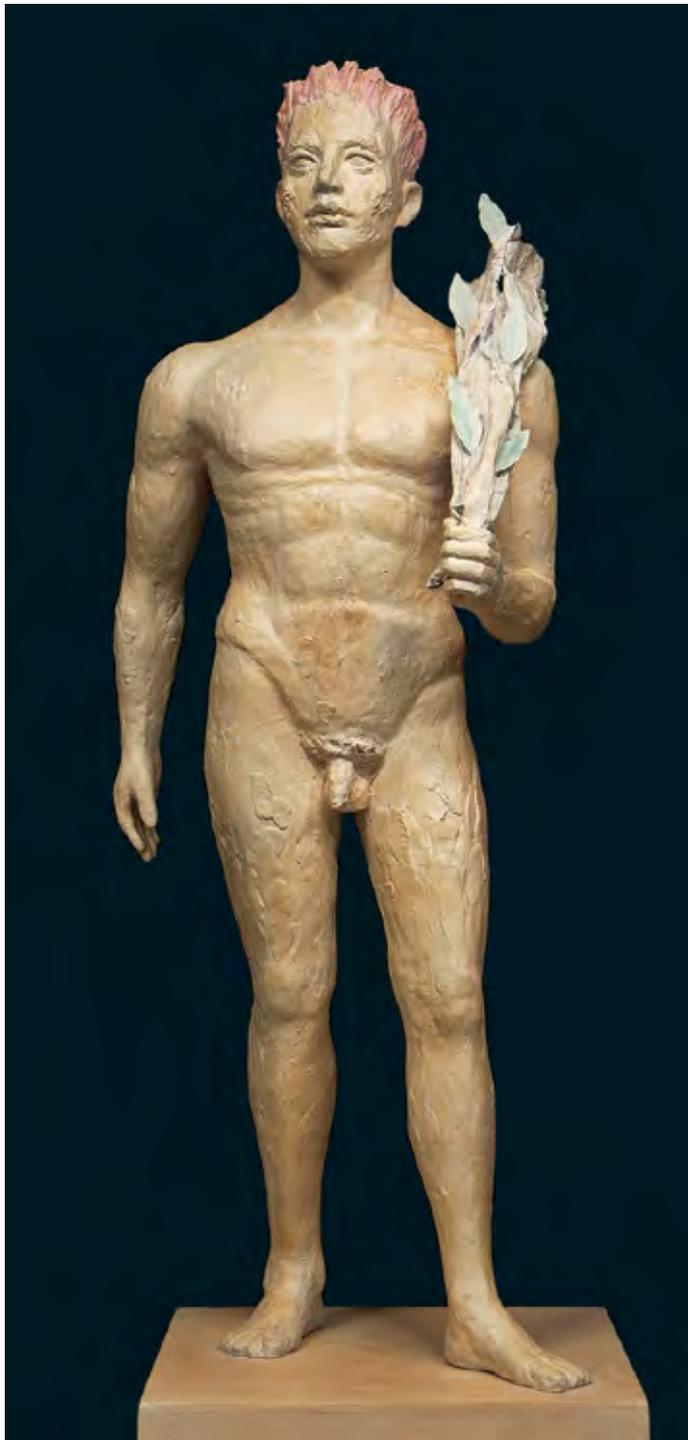
ほどほど H30×W30×D30 木 宮園広幸



ひとつの風景 H85×W45×D55 石膏・一部彩色 日置万里



シリーズ木の気 25-F H45×W180×D90 楠・柿渋・顔彩・ペイント他 中村淳子



戦うのをやめた男 H195×W86×D86 FRP 宇野 務



風の祭壇 H250×W80×D80 米梅・SPF材・合板 多羅間拓也



空へ H60×W200×D130 御影石 長谷川俊廣



織の月に想う H83×W33×D21 クスノキに彩色 阿部昌義



聲 H185×W50×D50 鉄・コールドレン鋼・木 正司 強



節目の証 H180×W85×D90 樟 林 一平



残影—'25 H163×W66×D72.5 榎 岡村 明



合奏 H200×W46×D50 楠・ステンレス 服部多加志



明日への飛行 H39×W180×D68 樟 川本 拓



Peace - 幸せの欠片 - H135×W74×D52 テラコッタ・水性FRP・石膏 山田美智子



跳躍 H190×W300×D91 樹脂・鉄・木・石膏 本多紀朗



誰が為 H140×W110×D100 大理石・御影石・真鍮・ステンレス 藤沢 恵



月の沙漠 H180×W40×D40
鉄 中山憲雄



紙の国の重荷 H155×W175×D180
花崗岩 萩野弘一



妖 楠 H94×W45×D45
澤田志功



YUKIGUNI H90×W110×D100
木(ケヤキ) 角谷豊明



La Famiglia H147×W200×D200 石膏・ポローニャ石膏 吉田朋世



踏み締める2 H71×W93×D32 木 細田愛由美



途次 H147×W48×D83 FRP 篠木玲子



赤いイス H211×W270×D135 ヒマラヤ杉 都丸洋一



遺作 収獲 H140×W50×D40 銅 浅草義治

会友

sculpture

彫刻



同調圧力 H54×W126×D90 木 今井卓雄



TIME TRAVEL H165×W100×D90 木
岡嶋祥介



Cosmic Storm H55×W90×D45 テラコッタ・石膏
丸山恵美



ボクのナマエはノヴァーリス H80×W50×D70 木・鉄
大坪義武



共生 H170×W100×D120
金属・発泡スチロール 吉野ヨシ子



もう1つの世界 H177×W400×D400 和紙・木・鉄
岩崎花菜子



Packaged Universe H197×W53×D44
ミクストメディア 市川治郎



喜ばしい音信 H150×W60×D50
銀杏・そらしらず 金 柱鎬



雲樹の約束 H273×W155×D86
朴の木・櫻 古森清五郎



Scean 17 miumiu H143×W60×D50
樹脂・合板 仲子垂未



るすばんばんばん H130×W55×D190
クスノキ 与島 雪



おもちゃ箱 H120×W40×D30
ミクストメディア 浜田修子



ミアツサアモキカコ H100×W125×D125 木・鉄・彩色
井上幸夫



カメとサメ、ダメ? H77×W40×D41
陶土・彩色 玉田真理



やまねむる H80×W115×D100 樟 平良光子



浮遊 H98×W160×D63 紙・アルミ・木 柴崎益代



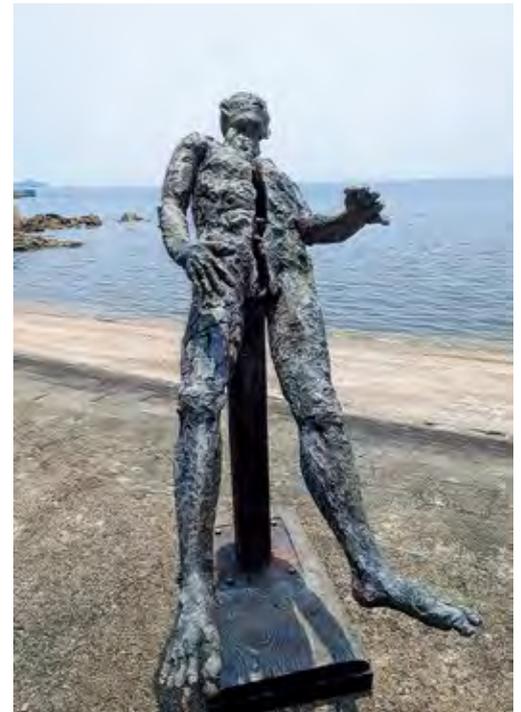
森に帰る H220×W160×D90 石粉粘土
川口三千雄



永遠にあなたの名を呼ぶ H60×W85×D35 大理石 瀬戸志保



空 H32×W63×D198 クス 佐藤しず子



消えた一閃 H145×W55×D130 木・鉄
洗川一男

二科会趣旨

二科会は永い歴史が語るように、発足以来、各部門が一貫した伝統精神として、時代を認識する徹底性において、視野を一方向に限定せず、新しい表現価値の創造に向かって不断の追究を期することが信条である。よって全会員の制作上の自由を擁護し、個性を尊重する。流派の如何を問わず新しい価値の創造者は抜擢され待遇されるであろう。

かくて、二科会を美の温床としようとする努力は不変の鉄則であり、我々の理念である。

二科会について

1889年(明治22年)に日本最初の洋風美術団体「明治美術会」が創立され、7年後の1896年(明治29年)に東京美術学校に洋画科が設置されたのが、わが国洋画壇の黎明期であり、この頃フランスに留学していた新進の芸術家が帰朝するに従って、文部省展覧会の審査に新・旧の価値観の違いが目立ってきました。そこで、新・旧を一科と二科に分離するように政府に要求しましたが、時期尚早なりと却下されました。

そのため1914年(大正3年)文展(文部省美術展)の洋画部に対して新進作家たちが新しい美術の確立を標榜して、在野の美術団体「二科会」を結成し「流派の如何にかかわらず、新しい価値を尊重し、創造者の制作上の自由を擁護し、抜擢する」という趣旨のもとに1世紀におよぶ歩みを踏み出しました。この間、二科会は常に時代の新傾向を吸収し、黎明期から多くの著名な芸術家を輩出してきました。

現在、絵画・彫刻・デザイン・写真の4部で二科美術展覧会を開催しておりますが、絵画部、彫刻部は民主的運営を目指し1979年(昭和54年)に法人化し、社団法人二科会として発足、さらに2012年(平成24年)には絵画部・彫刻部は公益社団法人二科会としての認定を受け、デザイン部・写真部も法人化の道をたどりしました。

2007年(平成19年)からは本展会場を上野の東京都美術館から六本木の国立新美術館に移し、4部門での秋の二科展として親しまれる二科美術展覧会を開催し、会員の研鑽を重ねた熟成度の高い大作を発表する場としつつ、全国から広く作品を公募し会員の鑑審査により入選した力作を展示し芸術振興に努めています。また被災地への義援活動やウクライナの子供たちの作品を特別展示するなど、芸術を通して広く社会へ貢献すべく活動しています。

二科展は、東京展に続き、各主要都市での巡回展を実施しています。

さらに、春には、上野の東京都美術館において、会員の実験的作品の発表と新進作家の育成を目指した春季展を開催し、2024年(令和6年)より特別企画として会友・一般からも自由に応募出来る「NIKA+nika/S20号」コンクールも同時開催し、より広い表現の可能性を探っています。